

Ohmi Net

あうみネット

あうみネット

Communication Paper for Voluntary Network in Ohmi

人と人を結ぶ♥ 作 杉尾尚子
ネットストーリー

“NPOのマネージメント”編



シリーズ～NPOへの素朴な疑問～〈第7回〉

NPOの公益性

市民&企業&行政ネット

め・と・て・とねっと

淡海エコフォスター制度

あなたも環境を育てる“エコフォスター”になってみませんか?

あうみネット リレーエッセイ

●トピックス

ここがヘンだよ、NPO!

みつけよう、マネジメントの解決策

●スポットライト

私たちががんばってます!NPO

- 人形劇サークル「マザーグース」
- 特定非営利活動法人 エコロカル ヤスドットコム
- NPO法人 瀬田漕艇倶楽部

伝言板 5月・6月

●センターインフォメーション

2002年度年間スケジュール
あうみ市民活動屋台村
実行委員募集
ほか

May
No. **29**
2002・5

淡海ネットワークセンター

淡海ネットワークセンターは、県内の市民活動、NPOをサポート・ネットワークしています。

シリーズ～NPOへの素朴な疑問～

[NPOって ナニ?]

第7回 NPOの公益性

環境保全目的のNPO法人が違法テレクラ営業で警察に摘発された。この報道記事を見ていると、NPO法人だから善だろうという価値判断が働いている。社会的使命のあるべきNPO法人が法人格を悪用して、こんなに悪いことをしているというものだ。確かに「べき論」で言えば、NPO（法人に限らず）は当然社会性があり、公益性があるべきだとなるし、事実、おおかたのNPOは、ミッション（使命）達成のために一所懸命努力している。

スタッフ、ボランティア、寄付者など、NPOに関係する人たちは、そのミッションのために働いたり、ボランティア活動をしたり、寄付したりしているのであって、結局は人々を引きつける動機と魅力は、NPOの持つ崇高なミッションと公益性に求められると言えるだろう。

では、NPOの持つ公益性とは何なのだろう。日本において、これまで「公共」「公益」といった概念は、行政領域、行政の専管事項と思われてきた。しかし、官僚機構への不信、社会の機能不全とともに市民活動の台頭により、「公益」そのものの考え方が変わってきたと言える。言い換えれば、市民発の「公益」という概念が必要であると認識されてきているのである。こうした考えがNPO法にも適用されている。すなわち、NPO法では、公益法人のような公益性の判断を役所が行うのではなく、12の活動分野のいずれかに該当し、不特定多数の利益の増進に寄与するという形式的な判断に限定している。したがって、いささか単純かもしれないが、公益性が高いほど支持する市民が増えていくという構図が成り立ちうるのである。

公益性を持っているのが当たり前とはいえ、どの世界にも例外はつきものである。健全なNPOが育ち、悪徳NPOが駆逐されていくには、NPO自身の力量が必要なことは言うまでもないが、一方で、NPOの持つ公益性を評価する目を持った市民の力も必要である。間違っても悪貨が良貨を駆逐することのないような市民としての心構えを持ってほしいものである。

(市民熟人)



「緑とやすらぎのある新海浜を守る会」井上代表は「琵琶湖の汚染がすすみ遊ぶこともなくなった子どもたちに、琵琶湖とふれあう機会を提供したい。」と語る。



活動場所には淡海エコフォスターサインを設置。



減量化推進担当主幹の市木繁和さん

めとてとねこと

市民&企業&行政ねこと

あなたも環境を育てる『エコフォスター』になつてみませんか？

淡海エコフォスター制度

今回は誰にとつても身近な環境問題、「ゴミのお話」です。今、あなたは道を歩いているとします。もし、「ゴミが落ちていたら拾いますか？それとも、知らんぷりして通り過ぎますか？」空き缶やペットボトル、たばこの吸い殻等「ゴミのポイ捨て」は後を絶ちません。「ゴミは道路に散乱するだけでなく、最終的には河川を通じて琵琶湖に流れ込みます。」

日本では数年前より「アドプト・プログラム」が注目されました。1985年、道路の散乱「ゴミ」の減量対策として、米國「テキサス州」で住民が立ち上がったのが始まりです。「アドプト」とは「養子縁組」の意味で、生活環境である「道路」「河川」「湖岸」と養子縁組するというユニークな発想で生まれました。自分たちの生活環境を快適にしたいという住民たちの思いが実現し、全米48州にまで瞬く間に広がってゆきました。

2000年、滋賀県でも「淡海エコフォスター制度」が導入されました。「エコ

フォスター」とは、公共的場所の美化および保全のため、企業や団体が愛情と責任を持って接し、環境（エコ）を育てる（フォスター）ことを表現しています。2月1日現在で39企業・団体が県または市町村との合意書に基づき、継続的に一定の場所（500m程度以上）をボランティアで美化清掃し、環境美化に対する県民等の意識の高揚を図る地域活動の推進に取り組んでいます。団体の活動に対しては、上限8万円の活動経費が支給され、ボランティア保険や清掃用具・ごみ袋等の購入費用、ごみの処理費用等にあらわれます。現在、県や市町村ではエコフォスターを募集中です。あなたも行政・企業・県民が一体となつて推進するエコフォスターに参加してみませんか？



マクドナルド各店が積極的に参加。

滋賀県琵琶湖環境部廃棄物対策課
TEL.077-528-3471 FAX.077-528-4845

お母さんもイキイキしよう！

心をむすんで*リレーエッセイ

お母さんがイキイキして、楽しんでいるってコトは、子どもにとつてもイキイコトのはず。そう信じて活動7年目になります。ママのためのサークルだから、子どもの年齢による「卒業」はありません。現メンバーの子達は0才〜中学生まで。働くママも専業主婦もいます。その時々のお味に応じて、軟はケーキバイキングツアーから硬はマネープラン講習会まで。クリスマス会等の季節の行事や、料理、手芸、子連れ遊び場めぐりといった定番ものからお泊まり会まで、やりたい事は何でもやっちゃおうというノリです。育児情報交換のみならず、暮らし、生き方にまでヒントをくれるサークルって、そうないよね。パパブリになつても楽しみたいナ。会員随時募集中！



育自サークル ママ・プリ
平井 育恵さん

今回は「ころぼっくるの家」の赤坂康子さんです。

※お詫び：事務局の勘違いで、皆さまにご迷惑をおかけしました。お詫び申し上げます。

うみ市民活動交流会2

—想いをかたちに表えるには—
主催：淡路ネットワークセンター



田村 太郎さん

特定非営利活動法人 多文化共生センター 代表

兵庫県生まれ。高校卒業後、海外を放浪。在日フィリピン人向けレンタルビデオ店勤務等を経て、1995年1月、阪神大震災で被災した外国人へ情報提供を行うボランティア団体「外国人地震情報センター」の設立に参加。同年10月、「多文化共生センター」への組織変更に伴い、事務局長に就任。1997年4月より代表。著書に「多民族社会ニッポンとボランティア活動」等。甲南女子大、天理大学非常勤講師。

多文化共生センター

「多文化共生センター」は多言語での生活相談や医療保健事業、子どもプロジェクトなど在国外人を対象とした活動と、日本社会へ向けた異文化理解、多文化共生の理念を広める活動に取り組む。1996年に「国際交流基金地域振興賞特別賞」、1998年に「第10回毎日国際交流賞」をそれぞれ受賞。現在は関西3カ所と、広島、東京に拠点を置く。2000年7月、経済企画庁より特定非営利活動法人認証。

〒537-0025大阪府東成区中道1-10-19
電話06-6973-7506 F A X 06-6973-7516 <http://www.jca.apc.org/cmia/>

TOPICS

ここがヘンだよ！NPO

みつけよう、マネジメントの解決策

なにかやってみたいという「想い」を「かたち」にするにはどうすればいいか。その「かたち」になったものを発展・継続させていくには。NPOのマネジメントはNPOにとって永遠の課題といえるかもしれません。3月3日に開催した「おつみ市民活動交流会」の基調報告では、多文化共生センター代表の田村太郎さんにNPOマネジメントの課題の解決策を整理していただきました。そのエッセンスをお届けします。

「やる気満々、立ち上げ期」編
活動内容はわかりやすく

1

日本に寄付の文化がないというのは嘘です。活動が分かりやすければ、寄付は集まります。ボランティア精神が日本人にはなじまないということもあやしい。ボランティアも、目標がはっきりしたものには集まります。問題は、NPO側が努力していないだけです。震災後のわかりやすい時期と、その後の苦労から、私は身をもってそれを感じます。成果が分かりやすい活動は広く共感を得て、人もお金も集まるといふことだと思っています。皆さんの活動が、もしお金が集まらない、若い人が来ない、そういう悩みに深刻に陥っていたら、成果や目標を見直すことをおすすめします。

立ち上げ期の組織はたいして少人数で、お互い顔が見える関係でやっていると思います。やる気満々ですから、立ち上げ期にあまり課題に直面する団体というのではないと思いますし、あっても、

顔の見える関係ですから、なんとか解決できるのではないのでしょうか。

誰もが行き詰まる？編
「想い」が「重い」にならないように

2

しかし活動を立ち上げてしばらくすると、どこかの団体でも悩みができます。想いを大切にしようと思つてやってきたのが、「想い」がだんだん「重い」になっていく。それは成果・品質が求められるとか、責任が発生することとのバランスの問題です。成果への責任感と自分のやりたいこととのバランスでみんな悩みはじめます。

ボランティアとは、自発性に基づいて活動する人です。ボランティアが参加すれば、活動に時間がかかります。そのうち、いつ来るか当てにならない人に仕事を任せられないとして、一部の人が何でもやってみようと思いがちになります。こうして団体は、一部のコアメンバーから外のボランティアの人たちに一方的な命令がいく組織や、意

思決定は真ん中だけでやっていて、周りの人は時々来るような組織となってしまう、かつての勢いは失われて、活動は「踊り場」にさしかかります。

なぜボランティアに仕事をコーディネートする時間がとれないのか。新しい人を巻き込むための時間がとれないのか。例えば皆さんの時間を奪っているのは、外との関係、他団体とのネットワークや会議ではないでしょうか。組織内のコミュニケーションに問題を感じたら、外に出る会議を減らすとか、ほかのメンバーに会議に行ってもらいましょう。自分の団体の成果は、中からは見えにくいものです。代表者だけでなく、いろんな人が会議に出れば、外からの評価も広く共有できていくのではないかと思います。なぜこの仕事が必要なのかが見えれば、人は動きます。こうしたことで、一方通行の矢印が少しずつ変わっていき、一部のスタッフが物事を決めていっているのではないという空気を醸成するのが大事です。

「活動の再定義」編 ボランティアも顧客である

3

このようなプロセスを経ると多くの団体は、自分たちの活動の目的、活動の手法を定義し直すという議論が出てきます。そのためにはまず「顧客」を見直すということです。顧客として見ていくべき対象は、三つあると思います。

一つは受益者です。誰に対してサービスしているのかということです。二つ目が経済的な支援者

です。誰がお金を出しているのか。三つ目が人的リソース。これがボランティアです。「満足を求めている人」を顧客とすれば、ボランティアも顧客なのです。ボランティアも自分が参加することで満足を得たい人たちなのです。

この三つのバランスがうまくとれたときに、再定義の期間を乗り越えて次にもう一回飛躍するという組織に移れるのではないかと思います。また組織のあり方として、閉じられた一部のスタッフがコアになるのではなく、それぞれ活動の中にコアが発生して、そこと外とが双方向になって活動することになり、飛躍できる組織になっていけると思います。



「それでもNPO」編 NPOだからできること

4

それぞれのニーズに特化し、絞り込んで活動するということがNPOの最大のメリットだと思います。自分たちに必要なサービスをどんどん提供していくことで、地域全体としては多様性を生み出すことが、NPOにはできるといえることです。

もう一つ、NPOはほとんど雇用を生み出すべきだと思いません。フルタイムかボランティアか、の2者択一ではなくこれにプラスでいわゆる「生きがい仕事」と呼ばれるワークシェア型の人たちがいる。そういう三段階にすると、NPOの雇用はもっと柔軟に考えていけるのではないかと思います。雇用を広げ、長期的な視点からNPOの人材の層を厚くしていくことが大事です。こういう柔軟なやり方も、私たちが自分たちで組織を作って、自分たちで決めていけばいいことです。NPOは雇用を増やし、人の層を厚くし、またより多くのサービスをどん欲に提供していく。これから数年間はそういうふうになっていかなければいけないのではないかと思います。

最後に、良くも悪くもNPOは実力勝負です。というか、実力でしか勝負できない。過去の経歴とか経験では食っていけません。なぜなら常に受益者から成果を求められるわけです。昔の名声や学歴ではなくて、今あなたに何ができるのかということが常に求められることだと思います。それがまたチャンスでもあると思います。

私たちががんばっています！

NPPO

どういうふうにしたら、もっとみんながイキイキと元気に暮らせるか—そんな素敵な夢を現実のものにするために、日夜奮闘しているNPPOの皆さん。環境・福祉・子ども・まちづくりetc. . . . 滋賀県に新しい風をおくるフレッシュな市民活動をご紹介します。

びっぐなわになれ ごともたち！

●人形劇サークル「マザーグース」

人形劇サークル「マザーグース」

代表●米田恭江
連絡先●能登川町佐野432-13
TEL●0748-42-7401 (米田)
設立●1997年
会員●8名

●2001年10月14日、米原町で開催された県のイベント「エコ旅フェスタ」では、「まんまる月夜の竹生島」を上演。

昨年行われた『夢〜舞めんと滋賀』では、多くの県民の参加があり、大盛況でした。皆さんのなかにも何かの縁で、協力したり、参加したりした方がいるのではないのでしょうか。人形劇サークル「マザーグース」も、昨年の秋、湖北で行われたエコ旅フェスタで、琵琶湖を題材にした民話「まんまる月夜の竹生島」を上演し、好評を得ました。『夢〜舞めんと滋賀』への参加のきっかけは、メンバーの一人が、あのメイソニキャラクター「うおーたん」の名付け親だったからだそうです。

「マザーグース」は97年4月、町内のつくし児童館で開かれる親子活動に参加しているお母さん方で結成されました。現在は1歳から4歳の子どもを持つお母さんたち8名が「楽しく子育て、楽しく人形劇」をモットーに、週1回練習をしています。集まると、ま

ず、おしゃべりが

始まってしまおうと
のことですが、それが、楽しく、長く活動できるコツではないでしょうか。小さい子どもがいると、子どものことだけで精一杯になりがちですが、公共の施設を上手に活用されながら、自分たちの楽しみ、そして、多くの子どもたちの楽しみを作り出しています。人形の材料は着なくなった洋服を活用し、賢くりサイクルしています。



●活動の拠点「ふれあいセンターつくし児童館」での打ち合わせ風景。



●人形劇に使う人形は、すべて古着を再利用したメンバーの手作り。

現在は、児童館を中心に年3回人形劇を上演しています。代表の米田さんは「出来上がったものを上演して、拍手をもらったときが一番うれしい」とのこと。また、今までの生活の中で、みんなの前で何かするという事がなかったので、いい経験になっているというメンバーも。長く付き合う中で、メンバーそれぞれに得意分野があることが分かり、また、何よりも、何でも話せる友達ができたのが、最高の宝物だそうです。

これからも、頼まれればいろいろなところへ出かけていきたいと張り切っています。そんなメンバーの思いをこれから、びっぐなわになって子どもたちへ届けていきたいとのことでした。

(編集ボランティア 清水奈美)

ここへ来ると若い人も高齢の方も、のびのびと漕げるんです。

●NPO法人 瀬田漕艇倶楽部

湖岸道路から少し入ったところ、ヨシの生える水際にりつばなクラブハウスが。1階の艇庫には、たくさんのボートが収納されています。取材に伺ったのは日曜日のお昼前。若い会員さんたちが午前中のトレーニングを終え、にぎやかに引き上げて来ます。



●クラブハウス前で。みなさん本当にボートが好きなんです。

瀬田漕艇倶楽部が発足したのは25年前。学生時代にボート部だった人が卒業後も漕げるようにと15

などで調達しています。

最年少（家族）会員は小学5年生、最高齢会員はなんと70代後半というのも居心地のいいクラブだからこそ。こなら誰でも気軽に自分のペースで漕げるのだそうです。代表理事の竹内さんは仕事と家庭と子育てしながら運営してこられました。「スポーツNPO法人は珍しいですよ。でもちよほど倶楽部自体が変わるべき時期にきていたのでしょう。毎週、ボートを漕ぎながら世代も仕事も違う倶楽部員との交流を楽しんでいます」とおっしゃいます。お話しを伺っているうちにとても

魅力的なスポーツに思えて一度琵琶湖に出てみたくなりました。（編集ボランティア 幡 郁枝）

NPO法人 瀬田漕艇倶楽部

代表●竹内英子
連絡先●クラブハウス
TEL077-545-9961
FAX077-543-7311
E-mail●info@SetaRC.jp
URL●http://www.SetaRC.jp
設立●2001年1月
会員●180名



●代表の竹内さん。

「エコロカル」という言葉はエコ（環境）とローカル（地域）を組み合わせた造語で、足もとから環境保全と地域づくりに取り組もうという熱い思いに満ちている。昨年2月、「野洲の地域環境を住民の手で守ろう」とNPO法人を設立した。主な事業は「太陽光発電の普及」と「里山の保全」である。



●行政の立場で協力（左から）野洲町役場の遠藤さん、田中さん。

一口1万円の寄付に対して1100スマイル（1万1千円相当）の地域通貨（地域クーポン）がもらえる。それを地元企業での商品の買い物代金の一部や、町の施設の利用料に使えるなど、地域通貨を地域経済の活性化に役立てようというねらいだ。名前の「スマイル」はお目録のニコニコ顔と通貨を使って環境の保全に一役かったという住民の笑顔を意味するのであろう。3ヶ月で1500口集まり、その1号機が3月末に設置された。

もう一つのプランが「里山保全」。住民が地域の山を守り、森林資源を地域で有効利用しようという試みである。ここでも「山のめぐみ」でもって、活動報酬にあてるといった知恵がある。「エコロカル・ヤス・ドットコム」。この意欲的なNPOの今後の活動に大きな期待が寄せられている。（編集ボランティア 森口行雄）



●間伐材を利用した、森林保全の拠点を住民の手で建設中。

このNPOが今、大変な関心を集めている。その理由は活動資源の集め方がユニークだからだ。「全国から市民団体や行政の視察が、毎週あって大忙しです」と取材、講演等を任されている野洲町役場政策推進室の遠藤さんが話される。その秘策を簡単に言えばこうだ。

「スマイル券」という地域通貨を発行し、太陽光発電の設備資金を募集する。例えば



●町内で利用できる地域通貨券「Smile」。

特定非営利活動法人 エコロカルヤスドットコム

代表●谷 豊
連絡先●野洲郡野洲町辻町151（株）
エイ・シー・エス内
TEL●077-588-3887
FAX●077-588-3889
設立●2001年
会員●12人

太陽光発電と里山保全を推進する、地域通貨「スマイル券」で地域経済も応援したい。

●特定非営利活動法人 エコロカルヤスドットコム

イベントづくりに参加しませんか

おうみ市民活動屋台村実行委員募集

淡海ネットワークセンターでは、県民の皆さんに市民活動やNPOの情報を広く紹介するとともに、こうした活動に対する理解を深め、参加の気運を盛り上げるために「第4回おうみ市民活動屋台村」を開催します。屋台村はみなさんといっしょにつくりあげていきたいと考え、実行委員会を組織することとしました。この実行委員会のメンバーを募集しますので、みなさんふるってご応募下さい。

■募集人員：30名程度

■応募資格：市民活動を実践しているか市民活動に関心があり、屋台村に参加できる方。

■職務：実行委員会で屋台村の企画・運営に携わっていただきます。

■会議日程：5月下旬から概ね月1回程度（平日午後6時30分から2時間程度）

■旅費等：会議出席時に交通費の実費のみお支払いします。

■応募方法：住所、氏名、所属、電話番号、FAX番号、E-mailアドレス、応募にあたっての抱負（100字程度。様式不問）を記入のうえ、郵送、FAXまたはEメールでセンターまで送付してください。

■応募期限：5月20日（月）

■その他：結果は応募者全員に5月下旬にお知らせします。

2002年度年間スケジュール

淡海ネットワークセンターの今年度の年間スケジュールが決まりました。

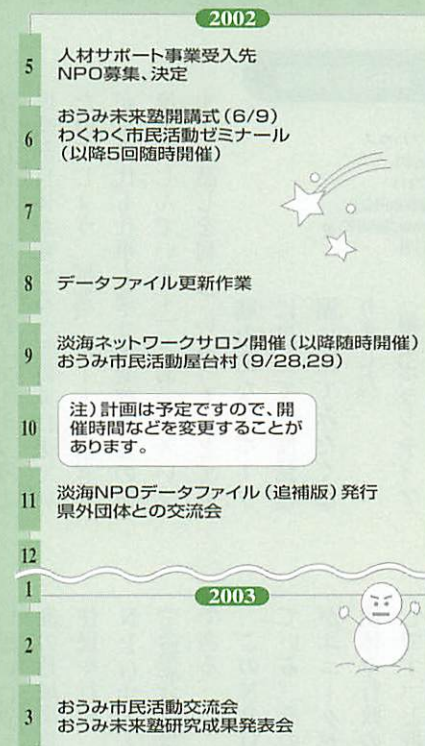
4期目を迎えた「おうみ未来塾」をはじめ、「わくわく市民活動ゼミナール」「おうみ市民活動屋台村」「NPO運営のための人材サポート事業」を今年度も行うほか、みなさんの意見や提言をいただいて、新しい展開も模索していきたいと考えています。

●おうみ未来塾開講式

日時：6月9日（日）午後
場所：ピアザ淡海県民交流センター203会議室

●おうみ市民活動屋台村

日時：9月28日（土）・29日（日）
場所：ピアザ淡海県民交流センター



淡海NPOデータファイル好評発売中

県内のNPO・市民活動団体の情報を掲載した「2001淡海NPOデータファイル」をご希望の方はセンターまでお問い合わせ下さい。

1冊700円（送料別）

ボイス

●ミュージカル活動の「ミュージカルカンパニー・クレムス」、滋賀県にもこういう活動をしておられる人がいるんだなあ…と思いました。（草津市） ●「山門水源の森を次の世代に引き継ぐ会」の記事に関心を持ちました。環境問題を考えた時、とても大事な事だと思うから。私たちの住む滋賀を住みやすく、きれいな街に、ひとりひとりが意識して取り組めるといいですね。（水口町） ●町村地区の活動グループ紹介してほしいと思います。このネットで活力を得て、発信できるまで行きたい。（信楽町）

編集後記

早朝ボートトレーニングは瀬田川の春から秋の風物詩。艇庫には多数のボートがズラリ。値段を聞いてビックリ！レース用なら一人乗り一艇が最低でも80万円。倶楽部があるから多くの人が気軽にボート競技を楽しめるんですね。（編集ボランティア・幡）

広報担当の事務局が野洲町役場の中だと聞いて正直、硬めの話かな、と思った。だが、その期待（？）は見事にはずれた。そこにはNPOにとっての重大課題である活動資源をどう調達するか、についての柔軟な知恵があった。（編集ボランティア 森口）

人形劇サークルへの取材依頼に立候補。実は、私も大津市膳所で人形劇をやっています。7月には草津文芸会館で上演予定。照明、音響と使った大掛かりな舞台は準備が大変ですが、いいお芝居に仕上げたいな。（編集ボランティア・清水）

この4月に新しく淡海ネットワークセンター事務局の一員となり、この編集後記が初仕事となりました。市民活動と一口に言っても社会福祉から環境保護、教育、文化活動などなど非常に幅広く、分からないことだらけですが、何事も勉強と思って楽しみながら挑戦していこうと思います。よろしくお願いします。

この4月からの新メンバーです。何事も勉強と思っ
て楽しみたいで
す。

事務局
笹山 衣理



淡海ネットワークセンター (財)淡海文化振興財団

■〒520-0801 大津市におの浜1-1-20
■TEL 077-524-8440 ■FAX 077-524-8442
■http://www.biwa.ne.jp/~ohmi-net
■E-mail:ohmi-net@mx.biwa.ne.jp

ご利用日時●月曜日と祝日の翌を除く毎日（12/29～1/3を除く）
火～金曜日/9:00～19:00 土・日曜日、祝日/9:00～17:00

●淡海ネットワークセンターの情報交流誌「おうみネット」は次のところに配布しています。
・各地域振興局、県民情報室、県内図書館、琵琶湖博物館、男女共同参画センター、文化産業会館、陶芸の森、草津コミュニティ支援センター、県社協ボランティアセンター、大津市生涯学習センター、さくらホール、滋賀銀行、郵便局（ボランティア貯金窓口）、公民館など



©無断転載を固くお断りいたします。

